

生活保護基準下げないで

各地でいっせいで審査請求

生活保護基準の引き下げで8月から支給額が削減されたのは不服だとして17日、各地の受給者がいっせいに審査請求しました。

愛知

「元に戻して」
愛知県内では、生活保護受給者250人余が大村秀章県知事に審査請求しました。反貧困ネットワークあい

生健会連合会の浅田光治会長代行や「ケア・ホームさくらんぼ」を利用している知的障害者9人がリレートークしました。同施設の職員藤内和也さんは「障害年金や工賃はごめずか。利用者の6割が生活保護を受けている。力をあわせて、弱い人たちが生きる希望をもてる社会に変えていきたい」と語ります。

ち、県生活と健康を守る会連合会、県民主医療機関連合会、県社会保障推進協議会などが呼びかけたもの。申し立てた豆成葉子さん(82)は豊橋市。8月からは月額1万5000円削減されました。「トイレは風呂の残り湯で流し、夜はテレビや窓から差し込む街灯の明かりで暮らしている。今でもギリギリな

不服審査請求は、生活保護費の削減を知ってから60日以内なら都道府県知事に申し立てることができず。知事は申し立てから60日以内に裁決をだします。裁決に不服があれば厚生労働大臣に再審

のた、何の相談もなく、一方的に減額するのは、泥棒がめることと同じ。絶対に元に戻してほしい」
2年前に病気で職場を解雇され、生活保護を受けている男性(66)は南区。1月6600円の減額。週1万円ですべての生活している自分にとっては大きい。壊れたクーラーを修理するところまでできず、風呂は図書館などで暖かさをしている。灯油の値上げで、この冬を乗り切れるか不安。みんなを声をあげ撤回させたい」と語りました。

参加者は請求に先立ち、県庁前で宣伝。県



生活保護費削減の撤回を訴える人々たち=17日、愛知県庁前

今でもギリギリ・人付き合いできない

審査請求できます。

石川

まともな生活へ
石川県では77人が県に対し集団不服審査請求を行いました。弁護士や医療相談員などをつくる北陸生活保護支援ネットワーク(県社会

かけたもの。日本共産党の佐藤正幸県議が同行しました。
請求書の提出には、生活保護受給者や弁護士、相談員など約40人が参加。「生活保護基準引き下げの取り消しを」と書いた横断幕を掲げて県庁内に入り、県の担当者に申請書を手渡しました。
金沢市の60代男性は「今の支給額でも冠婚葬祭などに参加するのが難しいのに、これ以上下がったらまともな人付き合いができません。」「いっせいに77人の方が声をあげたという事実からわかる通り、生活保護切り下げに対する国民の怒りはかなり強い」と述べました。
徳田隆祐弁護士は「いっせいに77人もの方が声をあげたという事実からわかる通り、生活保護切り下げに対する国民の怒りはかなり強い」と述べました。



審査参加者(左)に申請書を手渡す参加者ら=17日、長野県庁

長野

適正な審査を
長野県では反貧困ネットワーク信州と、県生活と健康を守る会が、52世帯62人分の審査請求書を提出しました。提出行動には、全

語りました。別の女性も「子どもがアレルギーを持っており、市販の洗剤、化学繊維の衣類が買えず、生活費は高つく。これ以上の引き下げはしないでほしい」と述べました。
対応した県地域福祉課の小口由美課長は、「みなさんの声を重く受け止めます。最後のセーフティネットとして、その機能を果たさないといけない」とし、適正な審査を行うとしました。

請求書を手渡した松本市在住の男性(68)は「お金がなくて、父親も知人の葬式にも行けなかった。食事の我慢はできても、心に負った申し訳ないという思いはなくなるなら」と

大事な一歩に
岐阜県では、自由法曹団岐阜支部、岐阜生

活と健康を守る会、ぎふ反貧困ネットワークのよびかけで、28人が古田縣知事に審査請求しました。記者会見で笹田三井護士は、「生活保護引き下げやパッシングでつらい思いをしてきた人たちが初めて声をあげたことに価値があり、大事な第一歩を踏み出した」と述べました。
大垣市の原田喜美さん(70)は「年いって、体も動かない。血圧高く、糖尿もある。通院しているけど交通費は出ない。今でも削られる削られていく。1日めく生活を抜く状態もある。これ以上削ったら生活できない」と訴えました。

岐阜市の男性(35)は、精神疾患でうつ病を患い半年前から受給しています。「早く自立したいのに仕事は全然ない。保護費を減らすと言ったら、しっかりと生活ができる給料がもらえる雇用の場をつくってほしい」と語りました。
日本共産党の大須賀しずか県議が同席しました。